

平成29年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）	
1	知事部局と教育委員会が一体となった「新文化行政推進プロジェクト」により、文化の多様性を生み出すとともに、文化庁「地域文化創生本部」等とも連携して、文化力による地域の活性化に向けた新しい文化行政を進めます。			
達成手段 (数値目標)	<p>知事部局と教育委員会が一体となった「新文化行政推進プロジェクト」により、文化資源の発掘・保護・継承と京都が有する財産～伝統産業、映像・ゲーム・アニメ・コンテンツ、食、観光の各分野での活用との取組を進め、文化庁「地域文化創生本部」や関西広域連合等とも連携し、我が国の文化行政をリードしていきます。</p> <p>○ 文化資源の更なる発掘・保護・継承だけでなく、文化資源の観光等への活用による保護・継承・活用の好循環を創出する持続可能な新たな文化政策を展開します。</p> <p>&lt;展開例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化財や伝統芸能等の体験型観光の拡大をはじめ、伝統産業や和食等の地域の歴史や文化を活用した地域創生への取組</li> <li>映像・映画をはじめとした、京都が持つ様々な文化資源のデジタルアーカイブ化やデジタルリマスターによるコンテンツ産業の振興</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>新文化行政推進プロジェクト会議を開催（4月（調整会議）、6月、9月、12月、3月）</li> <li>新文化行政推進プロジェクトにおいて、文化関連で先進的な事業を洗い出し、ブラッシュアップして文化庁に提案</li> <li>11月の政府要望で、文化庁地域文化創生本部と連携した戦略的な事業展開について要望し、全国高校生伝統文化フェスティバルの拡充が反映</li> <li>国際文化芸術発信拠点形成事業（平成30年度文化庁新規事業）について、「京都アーツ・アンド・クラフツ ワールド発信・流通戦略拠点形成事業」を申請し、採択</li> <li>「京都府文化力による京都活性化推進条例」の改正及び「京都こころの文化・未来創造ビジョン」の改定に向けた検討を進め、平成30年3月に条例改正の中間案のパブリックコメントを実施</li> </ul>	
	<p>○ 「京都文化ベンチャーコンペティション」を商工労働観光部、京都商工会議所、文化関係団体等と連携して開催し、文化による起業に向けた取組を積極的に支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受賞者への経営支援強化とともに、海外への販路開拓支援として、国際交流基金との連携によるパリ日本文化会館をはじめ国内外の機関等へのカタログ設置等による市場開拓</li> <li>応募者への支援&lt;1次及び2次審査通過者への起業セミナー、個別相談会等の開催回数20回（28年度実績15回）&gt;</li> <li>受賞者への支援&lt;専門家派遣回数 20回（28年度実績 20回）&gt;</li> <li>事業化・販路開拓への支援&lt;支援件数 30件（28年度実績 30件）&gt;</li> </ul>		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>募集期間：6/1 ～9/15</li> <li>応募総数：145件</li> <li>応募者への支援 32回</li> <li>昨年度受賞者に対する支援（展示会出展支援等） 20回</li> <li>過去受賞者に対する支援（販路開拓支援等） 30件</li> </ul>
	<p>○ 京都文化博物館等を会場とした「京都アートフリーマーケット」の開催を通じて、府民が若手芸術家のアート作品に身近に触れる機会を創出するとともに、運営に学生ボランティアを起用することで文化を担う人材を育成します。</p> <p>&lt;春・秋開催 計300ブース、75,000人（28年度実績 224ブース、60,776人）&gt;</p>		△	<ul style="list-style-type: none"> <li>2017年秋（開催日：10/7 ～10/9） 122ブース、40,040人</li> <li>2018年春（開催日：3/16～3/18） 113ブース、40,695人</li> </ul> <p>春・秋開催 計235ブース（78.3%）、80,735人（107.6%）</p> <p>【未達成の要因・理由】 年齢制限を緩和するなど、出展ブース数の拡大に努め、昨年度より増加したが、目標値に至らなかったもの。</p>

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）
②	<p>伝統文化に勤しむ全国トップレベルの高校生が京都に集い、日頃の成果を披露し合うとともに、新たな出会いと交流の場となる「全国高校生伝統芸能優秀校選抜公演(仮称)」を、文化庁「地域文化創生本部」等と共同開催し、各地域で大切に育まれてきた伝統文化を次世代に継承・発展させます。あわせて、茶道に勤しむ全国の高校生が集う「第4回全国高校生茶道フェスティバル」を開催し、更なる広がりを目指します。</p> <p>&lt;観覧者・参加生徒等数 約3,300人(うち京都府以外からの出場生徒等590人)(28年度実績 約3,200人(約560人))&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、日本の伝統文化に若い世代が取り組む姿を世界に向けて発信するため、プログラムの多言語化や、留学生等の観覧招待・交流を実施</li> <li>文化庁と連携し、マスメディアへの働き掛けやテレビ番組の全国放映に取り組むなど、全国への発信力を充実・強化 &lt;1件(28年度実績1件:30分番組)&gt;</li> </ul>	○	<p>「全国高校生伝統文化フェスティバル-第1回伝統芸能選抜公演」(文化庁との共催)及び「第4回全国高校生茶道フェスティバル」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全国への発信力の充実・強化</li> <li>・文化庁地域文化創生本部とともに文化庁との共催、開催の記者レクを実施(7/21)</li> <li>・事前告知として、yahoo Display Networkによるweb広告を配信</li> <li>・TV特別番組(30分)を全国放映(1/30)、放映後You Tubeにより過去放映とあわせ2年分公開・発信</li> <li>・PR映像(90秒)を作成し、You Tubeにより発信(視聴回数:約11万回)</li> <li>○東京2020公認文化オリンピックアード認証取得(伝フェス)</li> <li>○観覧者・参加生徒等:約3,200人(97%) (うち京都府以外からの出場生徒等:約700人)(119%)</li> <li>○留学生等の観覧者(約30人)及び英語版プログラム作成・配付</li> </ul> <p>&lt;全国高校生伝統文化フェスティバル-第1回伝統芸能選抜公演-&gt; 開催日:12/17(日) 会場:京都コンサートホール</p> <p>&lt;全国高校生茶道フェスティバル&gt; 開催日:12/16(土)・17(日) 会場:京都府立京都学・歴彩館 京都コンサートホール</p>
③	<p>多くの芸術系大学を有し、多くの芸術家の卵を輩出する京都から、アート、産業、伝統の垣根を越えた作品を展示・販売する「京都アートフェア」に向けたアート見本市を開催し、新鋭選抜展若手芸術家等の活動を支援するとともに、京都をアート創造の地として世界へ発信し、京都にアート市場を創出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>京都を中心とした新進気鋭の若手芸術家の発表の場として、40歳以下の作家を選抜し、美術・工芸等のジャンルを超えてあらゆる美術作品を対象として展示する「京都府新鋭選抜展2018」を開催(1~2月) &lt;新鋭選抜展入場者数 33,000人(28年度実績 32,450人)&gt;</li> <li>京都府新鋭選抜展で選抜された若手芸術家が、企業経営者等に対し直接作品をプレゼンテーションする「京都アートラウンジ」を開催し、購入や製作費の支援等により、様々な人が芸術家の活動に関わって支えるムーブメントを創り出し、経済活動を活性化するコンテンツとしてのアートの可能性を広げる。 &lt;京都アートラウンジ開催回数 5回(29年度新規)&gt;</li> <li>平成30年度に開催する大規模な「京都アートフェア」に向けたイベントとして、京都府新鋭選抜展の受賞者や画廊、作家が出展及び販売するアート見本市を開催し、誘客及び画廊や作家による販売促進の仕組の構築を進めるなど、京都におけるアート市場の創出に取り組む。</li> <li>「きょうと障害者文化芸術機構」と連携し、障害者アートの販路開拓を支援</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都府新鋭選抜展2018 平成30年1月20日(土)~2月4日(日)、京都文化博物館 入場者数 35723人</li> <li>京都アートラウンジ 7回開催 (5/27、7/22、10/13、11/22、12/13、1/19、2/24) 延べ426人(作家104人(102組)、企業関係者等322人)</li> <li>ARTISTS' FAIR KYOTO H30年2月23日~25日、京都文化博物館別館 来場者数3,092人 販売成約額14,817,280円</li> </ul>

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）
2	「文化首都・京都」の実現に向け、国への提言活動を積極的に実施するとともに、京都府として次代を見据えた指針を定め、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた、京都ならではの新たな先進的取組に挑戦します。		
達成手段 (数値目標)	<p>○ 日本の文化・芸術・学術を代表する京都府文化賞受賞者による「京都文化芸術会議」から、国等への提言活動を積極的に実施します。</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>京都文化芸術会議を開催し、文化庁移転を踏まえた新たな文化行政のあり方を提言</li> <li>文化賞受賞者の作品が鑑賞できる受賞者記念展、文化芸術による日本創生を議論するシンポジウム・講演会を開催&lt;2回(29年度新規)&gt;</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化庁移転や「文化芸術振興基本法」の改正など、文化を取り巻く環境の変化に即応し、次代を見据えた新たな指針の策定に着手します。</li> <li>「京都こころの文化・未来創造ビジョン」の改定(指針の策定)着手</li> </ul> <p>③</p> <p>次代を見据えた、京都ならではの新たな先進的取組に果敢に挑戦し、京都から全国・世界に向けた文化の発信を強化するとともに、世界中の人々と協働し、新たな文化創造の潮流を起こしていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、「京都文化カプロジェクト2016-2020」の実施計画(総論)に基づく事業を実施します。</li> <li>リーディング事業として、東京都等と連携し、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会公認文化プログラムである「東京キャラバン」を、京都の文化資源を生かして開催&lt;市内1回及び府域1回(29年度新規)&gt;</li> <li>機運醸成に向けたフォーラムの開催及び機関誌の発行</li> <li>府内各地の文化創生の基盤づくりに向けた、府内で活動する文化芸術団体への支援と連携</li> <li>国のbeyond2020プログラムへの認証</li> <li>平成30年度に実施予定のアーツアンドクラフツ等の具体的な事業計画と開催準備</li> </ul> <p>○ 文化資源を活用した地域の創生を図るため、2020年の地域発信型の芸術祭の開催に向け、地域アートマネージャー等を配置し、地域の文化資源の発掘を主とした短期のアーティスト・イン・レジデンス事業を府内各地へ展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の文化資源の発掘と、地域住民と連携した新たな文化芸術活動を創出する地域アートマネージャー及び地域アートコーディネーターを配置&lt;3名(29年度新規)&gt;</li> <li>京都Re-Seach(短期アーティスト・イン・レジデンス事業)を実施&lt;府内3箇所(28年度実績 府内1箇所)&gt;</li> <li>各地域の京都Re-Seachの成果を踏まえた、成果発表会兼フォーラムを開催&lt;1回(28年度実績 1回)&gt;</li> </ul>	<p>△</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>京都府文化力による京都活性化推進条例や京都こころの文化・未来創造ビジョンの改定について「文化芸術会議」の世話人会等から文化政策への意見を聴取(11/28)</li> <li>文化賞受賞者記念展の開催(1/31)(1回)(50%)</li> </ul> <p>【未達成の要因・理由】 条例改正やビジョン改定を検討中であり、文化芸術による日本創生を議論するシンポジウム・講演会は、改定の方向性を踏まえた上で、実施することとなったため。</p> <p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会情勢の変化や文化芸術基本法の改正・施行を踏まえた条例改正の着手に合わせ、ビジョン改定に着手(3月13日～4月9日まで条例改正に係るパブリックコメント済み)</li> </ul> <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>8月、9月に東京キャラバンを東京都等と協働で開催。 8/19(土)、20(日) 約800名 ガレリアかめおか(亀岡市) 9/2(土)、3(日) 約1,000名 二条城(京都市)</li> <li>4月に第1回推進フォーラムを開催(4/26(水)、ロームシアター京都サウスホール)約700名 平成30年2月に第2回推進フォーラムを開催(2/24(土)、ロームシアター京都メインホール)約1000名 機関誌(第2号)発行</li> <li>京都文化芸術団体連携強化事業補助金を交付(15団体)</li> <li>京都文化カプロジェクト実行委員会が国のbeyond2020プログラムの認証組織となり、認証申請の受付を開始。(29年8月～、認証146件(3月16日現在))</li> <li>平成30年度事業として、インスタレーションや立体作品にテーマを絞った公募展、またそれに連動したシンポジウム等を開催予定</li> </ul> <p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域アートマネージャー及び地域アートコーディネーター等を配置(3名・団体、中丹広域振興局、福知山市、京田辺市)</li> <li>福知山市、京田辺市、舞鶴市と連携して、短期・中期のアーティスト・イン・レジデンスを開催(京田辺市 8/21～9/3、福知山市 8/21～9/3、舞鶴市 9/11～11/5)</li> <li>京都:Re-Search×はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトフォーラムを京都文化博物館で開催(12/10)</li> </ul>	

運営目標	達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 明治150年(京都府庁開庁150年)に向け、「京都学・歴史館」に所蔵する歴史資料等により、明治期の京都文化や京都の歩み等を紹介する企画展示やイベント等の開催に向けて、国と連携して準備を進めます。</li>   <li>○ 国際博物館会議(ICOM)京都大会2019に向け、ICOM日本委員会の取組に呼応し、ICOM京都大会2019京都推進委員会を中心に受入体制を整備し、大会及び府内博物館等のPRを実施します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICOM本部長を招聘しての「国際シンポジウム」に合わせた大会のPR</li> <li>・ ICOM本部役員会の京都開催に合わせた京都文化博物館や舞鶴引揚記念館等の会場候補施設への視察・誘致</li> <li>・ 博物館等の多言語化、共通パンフレットの作成、夜間開館の試行等</li> </ul> </li>   <li>○ 府内の博物館・美術館等(京都市以外想定70以上)が参画して設立した「京都府ミュージアムフォーラム」の中核施設として、京都学・歴史館が他施設との連携による企画展示や研究交流を推進します。</li>   <li>○ 「生涯学習活動展開・充実プラン」の実現のため、京都学・歴史館や府立ゼミナールハウス(あうる京北)等と連携して、講座の充実や講演会の動画発信など、生涯学習施策・事業を積極的に展開します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt; 京都学・歴史館利用者数 20万人(29年度新規) &gt;</li> <li>&lt; 府立ゼミナールハウス利用者数 40,000人(28年度実績:39,463人) &gt;</li> <li>&lt; 生涯学習サイト(インターネット放送局の生涯学習講座)の受講者数 11,000人(28年度実績:5,952人) &gt;</li> <li>・ 地域別の生涯学習連携会議を開催</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li>   <li>○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明治150年に向けて、京都の文化や産業の再興・発展の軌跡を振り返るリレー講座(3回)を開催するとともに、記念展示を開催準備中。4月14日(土)から明治150年記念展示「御一新! ~19世紀後半の京都~」を予定。</li>   <li>・ ICOM本部長、知事、市長等による意見交換会を実施(5月)</li> <li>・ ICOM京都大会の周知を図るチラシ、名刺貼付PR用のシールを作成</li> <li>・ 京都学・歴史館において「京都府ミュージアムフォーラム」参画施設による施設見学・意見交換を実施(8月)</li> <li>・ 京都学・歴史館利用者数 213,911人(107%)</li>   <li>・ 府立ゼミナールハウス利用者数 39,080人(前年比 99.0%)</li>   <li>・ 生涯学習サイト(インターネット放送局の生涯学習講座)の受講者数 8,436人(77%) <ul style="list-style-type: none"> <li>【未達成の要因・理由】</li> <li>講座内容の充実や講座等の検索機能の改善等により、受講者数は昨年度比約40%の増加となったが、目標には至らなかったもの。</li> </ul> </li>   <li>・ 地域別の生涯学習連携会議は未開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>【未達成の要因・理由】</li> <li>府生涯学習審議会において、地域の取組事例の事例報告を行い、関係者間の意見交換を行ったため、地域別の会議を開催しなかったもの。</li> </ul> </li> </ul>

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）
	<p>京都の有する優れた文化価値を内外に力強く発信するため、地元市町とも連携し、天橋立の世界遺産登録に向けた取組を推進するとともに、既登録・認定遺産を活用した文化の発信や地域の活性化を進めます。</p> <p>○ 天橋立の世界遺産登録暫定一覧表への登録に向けて、世界文化遺産として国際的に認められる価値（顕著な普遍的価値）を有することを証明するため、天橋立の砂州や松並木の保全への人々の関わり方や、日本庭園の歴史などについて調査・研究を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天橋立の価値を広くPRするためのシンポジウムの開催＜1回（28年度実績1回）＞</li> </ul> <p>○ 「和食」の聖地をめざし、オール京都の推進体制である「京都・和食文化推進会議」を運営し、顕彰事業等をはじめ京都ならではの取組を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>＜参加団体等 340団体・個人（28年度実績 269団体・個人）＞</li> <li>・ 「和食文化京都大賞」及び「京都和食文化賞」による和食文化の発信等へ貢献する人材を顕彰</li> </ul> <p>○ ユネスコ「世界の記憶」に登録された国宝・東寺百合文書について、一層の活用・発信を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>＜展覧会、講演会等の開催 1回（29年度新規）＞</li> </ul> <p>○ 「300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊」の日本遺産の認定を契機に、丹後地域の織物文化を活用した観光誘客や織物産業・シルク関連産業の振興と、織物文化の継承を図る。【企画理事・商工労働観光部共管】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>＜織物関係の文化・産業に関する旅行商品・体験メニューの開発数 4件＞</li> <li>＜シンポジウム、丹後ちりめん等の展示会・商談会等の開催 2回＞</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天橋立の価値を広くPRするための講演会を開催（2月 京都市）</li> <li>・ 「京都・和食文化推進会議」参加団体等＜270団体・個人＞（79%）</li> </ul> <p>【未達成の要因・理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和食のユネスコ無形文化遺産登録に尽力いただいたフランス人を大賞受賞者として招聘し、新聞にも大きく取り上げられるなど会議の取組等に係る周知に一定の効果があつたが、個別の働き掛け等に十分取り組むことができなかったため</li> <li>・ 9月補正予算「和食の文化祭典事業費」関係課と連携し、京都・和食文化推進会議「和食文化京都大賞」「京都和食文化賞」表彰式を開催（2/19）</li> <li>・ 東寺百合文書データミーティング開催（10月）</li> <li>・ 織物関係の文化・産業に関する旅行商品・体験メニューの開発数（10件）</li> <li>・ 平成29年9月～11月に首都圏・京阪神の百貨店で展示会を開催するとともに、9月にツーリズムEXPOジャパン。平成30年2月にタイの旅行博へ出展し、日本遺産や丹後ちりめん等の織物商品をPR（国内3回、海外1回）</li> </ul>
3	「ほんまもん」の文化芸術を深め、次世代への継承を図ります。		
達成手段 (数値目標)	<p>次世代を育み、文化の継承を図ります。</p> <p>○ 有識者等による協議会（文化の知恵袋）により、教育委員会との連携のもと、文化・芸術に優れた人材を学校や地域に派遣し、児童、生徒が優れた文化・芸術を体験・理解するとともに、地域の文化創造活動に参画することができる機会を拡充します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>＜次世代が学校又は文化会館等で体験する文化活動事業数 80件（28年度実績 72件）＞</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化活動事業数 計89件（111.2%）</li> <li>・ 「文化の知恵袋」委員会の委員意見に基づき、学校へのアーティスト派遣 72件、地域の会館等での体験事業 8箇所を実施</li> <li>・ 指導者向け講座（美術・工芸、能、書道、写真、合唱）7部門を実施</li> <li>・ 就学前幼児と保護者向け講座等 2コース実施</li> </ul>

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）	
①	<p>○ 伝統文化に勤しむ全国トップレベルの高校生が京都に集い、日頃の成果を披露し合うとともに、新たな出会いと交流の場となる「全国高校生伝統芸能優秀校選抜公演（仮称）」を、文化庁「地域文化創生本部」等と共同開催し、各地域で大切に育まれてきた伝統文化を次世代に継承・発展させます。あわせて、茶道に勤しむ全国の高校生が集う「第4回全国高校生茶道フェスティバル」を開催し、更なる広がりを目指します。</p> <p>【再掲】            &lt;観覧者・参加生徒等数 約3,300人（うち京都府以外からの出場生徒等590人）（28年度実績 約3,200人（約560人））&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、日本の伝統文化に若い世代が取り組む姿を世界に向けて発信するため、プログラムの多言語化や、留学生等の観覧招待・交流を実施</li> <li>・ 文化庁と連携し、マスメディアへの働き掛けやテレビ番組の全国放映に取り組むなど、全国への発信力を充実強化 &lt;1件（28年度実績1件：30分番組）&gt;</li> </ul>	○	<p>「全国高校生伝統文化フェスティバル-第1回伝統芸能選抜公演」(文化庁との共催)及び「第4回全国高校生茶道フェスティバル」の開催            ○全国への発信力の充実・強化            ・文化庁地域文化創生本部とともに文化庁との共催、開催の記者レクを実施(7/21)            ・事前告知として、yahoo Display Networkによるweb広告を配信            ・TV特別番組(30分)を全国放映(1/30)、放映後You Tubeにより過去放映とあわせて2年分公開・発信            ・PR映像(90秒)を作成し、You Tubeにより発信(視聴回数:約11万回)            ○東京2020公認文化オリンピックアード認証取得(伝フェス)            ○観覧者・参加生徒等数:約3,200人(97%)            (うち京都府以外からの出場生徒等数:約700人)(119%)            ○留学生等の観覧者(約30人)及び英語版プログラム作成・配付</p> <p>&lt;全国高校生伝統文化フェスティバル-第1回伝統芸能選抜公演-&gt;            開催日:12/17(日)            会場:京都コンサートホール            &lt;全国高校生茶道フェスティバル&gt;            開催日:12/16(土)・17(日)            会場:京都府立京都学・歴彩館            京都コンサートホール</p>	
	<p>○ 「古典の日」の精神を京都から世界に普及するため、古典に親しみ、次世代へとつないでいくための取組を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典の日推進委員会等と協働し、源氏物語等をテーマとした古典の日や全国朗読コンテスト等を実施</li> <li>・ 古典の日推進委員会や関西広域連合と連携し、「古典の日」を普及啓発</li> <li>・ 「古典の日フォーラム」をはじめ、「古典の日に関する法律」の精神を踏まえた国主催事業が全国展開されるよう、国に対して提案</li> </ul>		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典の日フォーラム五周年記念式典の開催(11月1日、国立京都国際会館) 参加者1,700人</li> <li>・ 「古典の日朗読コンテスト開催」応募367人</li> <li>・ 29年6月の政策提案で、古典の日フォーラムの全国展開を国に提案</li> </ul>
	<p>○ 京都文化の魅力を発信し、次世代の育成、継承を図るとともに、「ほんまもん」の文化芸術に触れる機会を創出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典芸能、舞台芸術、音楽などの若手芸術家が公演等に参加し、青少年が優れた文化・芸術に触れる機会を創出く文化施設等における古典芸能・舞台芸術公演等の実施数 50件(28年度実績 48件)&gt;</li> </ul>		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典芸能普及促進事業補助 29件(能、狂言、邦舞、邦楽、詩吟)</li> <li>・ 舞台芸術・次世代推進事業            委託14事業(府民ホールアルティ、文化芸術会館)            補助6事業(広域振興局管内)</li> <li>・ 計49事業実施(98%)</li> </ul>
②	<p>「ほんまもん」の文化芸術を深め、文化の裾野を拡大します。</p> <p>○ 京都を中心とした新進気鋭の若手芸術家の発表の場として、40歳以下の作家を選抜し、美術・工芸等のジャンルを超えてあらゆる美術作品を対象として展示する「京都府新鋭選抜展2018」を開催(1~2月)【再掲】            &lt;新鋭選抜展入場者数 33,000人(28年度実績 32,450人)&gt;</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都府新鋭選抜展2018 平成30年1月20日(土)~2月4日(日)、京都文化博物館            入場者数 35723人</li> </ul>	

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）
<p>○ 京都最大の公募写真展「京都現代写真作家展」を開催し、次代を担う写真作家の育成と写真芸術の振興を図ります。          &lt;入場者数:3,500人(前回27年度実績 3,318人)&gt;</p> <p>○ 京都彫刻家協会との共催による野外彫刻展を府立植物園で開催し、府民の彫刻への関心を深め、京都の彫刻芸術の振興を図ります。(平成29年10月予定)          &lt;入場者数:40,000人(28年度実績 36,054人)&gt;</p> <p>○ 京都文化博物館を運営・活用し、様々な京都文化の発信を強化します。          ・ 展示内容の多言語化・展示解説の充実、夜間開館の試行実施等          &lt;総入館者数:85万人(28年度実績 732,327人)&gt;</p> <p>○ 府立の文化施設を運営・活用し、優れた文化芸術の創造活動を展開するとともに、文化芸術情報の発信、府民の文化芸術の鑑賞の機会や文化活動の場を提供します。          &lt;京都府立文化芸術会館の総入場者数 18万人(28年度実績 173,251人)&gt;          &lt;京都府立府民ホールの総入場者数 7万人(28年度実績 67,867人)&gt;</p> <p>○ 府庁旧本館を中心に、府民協働により、近隣の歴史的建造物の公開や個性ある美術工芸展・文化体験などを実施する「府庁界隈まちかどミュージアム」の開催や開館時間を延長するナイトミュージアムを実施します。          &lt;府庁界隈まちかどミュージアム入場者数:18,000人(28年度実績 17,466人)&gt;</p> <p>○ 京都府文化芸術団体ネットワーク会議(府内各地域で活動する文化芸術団体(17団体)で構成)による加盟の文化芸術団体の相互の広報連携や、コラボレーションによる新たな展示・公演の創出を促進します。</p>	○	<p>・京都現代写真作家展開催          会期 12月13日～17日          会場 京都府京都文化博物館          出品 入選作品163点、高校生作品40点、賛助作品10点          入場者 3,172人(90%)</p>	
	△	<p>・「2017京都野外彫刻展」開催          会期 9月30日～10月15日          会場 京都府立植物園、京都府立陶板名画の庭          出品 40作品          入場者 35,716人(89%)          【未達成の要因・理由】          小学生対象の額飾りや装飾品を作成するワークショップを開催するなど、入場者の確保に努めたが、会期の後半の土日が雨天となり、入場者数が伸びなかったもの。</p>	
	○	<p>・京都文化博物館 775,563人(91.2%) &lt;速報&gt;          夜間開館の試行実施 7～8月 7日間</p>	
	○	<p>・文化芸術会館 177,863人(98.8%) &lt;速報&gt;          ・府民ホール 68,766人(98.2%) &lt;同&gt;</p>	
	△	<p>・府庁界隈まちかどミュージアム          開催日: 10/21～11/5          入場者数 15,875人(88.2%)          【未達成の要因・理由】          台風21号、22号等による悪天候の日が多く、入場者数が増えなかったもの。          ・文化体験として、聞香・邦楽鑑賞・調香・くみひも・竹細工などを実施          ・夜間開館: 文博総合展(7～8月の7日間に19:30→20:00まで延長)          別館コンサート: (7月の2日間に19:30→20:30まで延長)</p>	

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）
4	【北山文化環境ゾーン】京都学・歴彩館や植物園、府立大学などが一体となった文化・学術・環境の交流発信拠点形成を着実に進め、多様な京都文化の魅力を内外に発信します。		
達成手段 (数値目標)	① ○ 京都学・歴彩館、植物園、府立大学などの各施設、エリアを文化・芸術でつなげ、世代を超えた多様な人々の連携・交流を図るとともに、学生や若手アーティストの発表の場となる広場・プロムナードの整備を進めるとともに、周辺施設の壁面緑化等の整備計画を策定します。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>広場・プロムナードの整備については、デザインコンセプト及び基本計画を策定。30年度以降の整備に向け、基本・実施設計を準備中。</li> <li>植物園会館の壁面緑化整備完了。</li> </ul>
	② ○ 総合資料館跡地活用等検討委員会において、旧資料館跡地の活用など北山文化環境ゾーンの整備構想を策定します。	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進事例調査を実施する等、整備構想の策定に向け検討中</li> </ul> <p>【未達成の要因・理由】 先進事例調査を実施し、整備や運営手法について幅広く検討を行ったが、具体的な整備構想の策定には至らなかったもの。</p> <p>&lt;先進事例調査&gt; 水戸芸術館（ソフト重視の運営形態）、四季芸術センター（劇団四季が有する稽古場）、せんだいメディアテーク（美術・音楽・映画・生涯学習等の拠点）、東大門デザインプラザ（ソウルの巨大複合施設）</p>

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）
③	<p>○ 京都学・歴彩館が文化首都・京都における新たな文化・学習交流の中核施設となり、多様な事業を展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都学・歴彩館の1階 交流フロア（京都学ラウンジ、大ホール、小ホール、展示室等）に続いて、2階探究フロア（図書・資料フロア等）をオープン（4月28日）＜年間利用者数 20万人（29年度新規）＞</li> <li>・ 海外の日本文化研究機関との交流連携協定に向けた取組を推進＜交流連携協定締結 3件＞</li> <li>・ 海外研究者を招聘・受入＜2名（29年度新規）＞</li> <li>・ 国際京都学シンポジウム＜1回（28年度実績1回）＞、講演会等＜12回（29年度新規）＞を開催</li> <li>・ 京都学ラウンジでの学生等による交流事業等を実施</li> <li>・ 西陣織・京友禅等の伝統産業の技術、日本画の伝統意匠、現代ファッションが融合したイベントの開催</li> <li>・ 光庭、ホワイエ、ロビー等の空間を活用したアート展示、所蔵品を活用した京都文化を発信する企画展等を開催</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者数 213,911人（107%）</li> <li>・ 交流連携協定 7件（海外4件、国内3件）締結済</li> <li>・ 海外研究者の招聘・受入 4名</li> <li>・ 国際京都学シンポジウム 2回（発表4名）</li> <li>・ グランドオープン記念シンポジウム（4月）、開館記念展示関連シンポジウム（6月）、講演会等（セミナー、講座13回、ラウンジミニ講座28回）を開催</li> <li>・ 京都学ラウンジを活用し、パネル展示や府立大学とも連携した毎週木曜日のミニ講座の開催等、交流事業等を実施</li> <li>・ ユミカツラパリ リターンコレクション「若冲を着よう」の開催（4月）</li> <li>・ 光庭、ホワイエ、ロビー等の空間を活用したアート展示、所蔵品を活用した京都文化を発信する企画展を開催 →彫刻展示、ピクチャーレールを活用したパネル展示の実施。</li> <li>・ 企画展等の開催（4回）</li> </ul>
④	<p>○ 約1万2千種の植物を育成栽培する「府立植物園」の魅力を高め、日本一おもしろい・心安らぐ植物園をコンセプトに、府民のいこいの場、教養の場としてその充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本一の植物園にふさわしい自然と調和し緑を活かした、植物園会館の緑化整備を推進</li> <li>・ 「府立陶板名画の庭」と連携したマルシェなど、協働事業を通した新たなふれあい・交流空間づくりを推進</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植物園会館の壁面緑化については、整備完了。</li> <li>○ 府立陶板名画の庭」と連携したマルシェなど、協働事業を通した新たなふれあい・交流空間づくりを推進</li> </ul>

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）
	<p>○ 年間を通じて北山地域の各施設と連携し、多彩なイベントを開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関係団体等との連携や民間のアイデア・手法を活かした多彩なイベントを開催 京都さくらよさこい(4月)、花と緑の園芸フェスティバル(5月)、植物園マルシェ(8月)、府民ガーデニングコンテスト(10月)、京都マラソン植物園周遊(2月)等</li> <li>4園館(植物園、動物園、水族館、青少年科学センター)連携による次世代に向けた自然科学事業を展開 &lt;植物園入園者数 90万人(28年度実績 84万人)&gt; &lt;陶板名画の庭入園者数 7万人(28年度実績 6万人)&gt;</li> <li>植物園を回遊しながら、スマホGPSアプリによるオルセー美術館名作と植物風景との新たな出会いを楽しむ名画ツアーを実施(7~8月)</li> <li>植物園において、和のテイストを活かした庭園デザイナーによるコンテンポラリーアートの展覧&amp;イベントを実施(10月)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各種イベントを開催(花と緑の園芸フェスティバル(5月)、植物園マルシェ(8月)、ガーデニングコンテスト(10月)、京都マラソン植物園周遊(2月))</li> <li>植物園入園者数 873,107人 (前年度比103.9%)(達成率97%)</li> <li>陶板名画の庭入園者数 45,479人 (前年度比67.3%)(達成率65%)</li> <li>【未達成の要因・理由】 昨年度に約2万3千人が来場した北山ハロウィンが、台風のため大幅に入場者が減少したため</li> <li>「オルセー美術館アートウォークin京都府立植物園×大丸京都店」を開催(7~8月)</li> <li>京都府立大学と連携した植物園実験教室開催。スマートフォンによる樹木めぐりマップ作成。</li> </ul>
	<p>○ 「北山文化環境ゾーン交流連携会議(北山ぱーとなーず)」の取組を更に強化し、地域が一体となった活動を通して、文化・芸術を身近に感じることのできる新たなエリアデザインを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加盟団体を増加&lt;5団体増加(計31団体)(28年度実績 計26団体)&gt;</li> <li>地元学生によるロゴマークやキャッチコピー、イラストマップなどを活用したエリアブランド戦略を展開</li> <li>SNS等を活用したエリア情報の発信強化</li> <li>「北山月間」(11月)などメンバーの連携協働による交流事業を展開</li> <li>北山の魅力向上・活性化課題に係る調査研究と成果を発信する「北山デザイン会議」を開催&lt;年3回(28年度実績 2回)&gt;</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>加盟団体 27団体(100%)</li> <li>北山月間スタンプラリー10,000枚配布、271枚応募</li> <li>鴨川茶店(4/9~10)</li> <li>地下鉄/パンまつり(5/14)</li> <li>京都北山ゆかた祭り(8/5)</li> <li>北山ハロウィン(10月)</li> <li>京都国際映画祭「北山アートプロジェクト」(10/14,15)</li> <li>府大学生団体かごらと連携して北山地域の魅力をSNS発信(20回)</li> <li>フェイスブックによるイベント情報発信(20回)</li> <li>北山月間スタンプラリー10000枚配布271枚応募</li> <li>北山デザイン会議 2回開催(7/26、3/26)</li> <li>【未達成の要因・理由】 北山地区の施設や団体に加盟の働きかけを行ったが、オブザーバーとしての参加に止まり、加盟については1団体のみとなったもの。</li> </ul>
5	文化芸術施設の改修・整備を推進し、府民の快適な鑑賞環境を提供します。		
達成手段 (数値目標)	<p>○ 開館50年を迎え、累計入館者数50万人を達成した堂本印象美術館について、機能向上や更なる魅力の発信を図るリノベーション工事を実施し、入りやすく、親しみやすい美術館として整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正門の幅を広げ、車いす等で来館し易いよう玄関へのアプローチを改良</li> <li>正面の京都市バス停留所について、美術館の敷地の一部を無償貸与するとともに美術館のイメージに合う大型バスシェルター(屋根)を備えた「バスの駅」として整備</li> </ul> <p>○ 京都文化博物館をはじめ、丹後、中丹、長岡京の各文化会館等について、府民ニーズに即して、緊急性の高い設備等の更新や機能の強化・充実を進めます。</p>	◎ ◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>堂本印象美術館のリノベーション工事が完了し、平成30年3月20日内覧会開催、翌21日リニューアルオープン。京都市交通局と協調し「バスの駅」事業として整備したバス停も3月20日に併せて供用開始</li> <li>京都文化博物館、各文化会館等については、非常用発電機等の整備を実施</li> </ul>

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）
6	スポーツ施設の整備推進と、府民がスポーツに親しむ中で、トップアスリートの輩出や地域の交流促進の好循環を創出する「スポーツ王国・京都」を実現します。		
達成手段 (数値目標)	<p>スポーツ活動の拠点となる施設の整備を進め、トップアスリートから一般のスポーツ愛好者に至るまで、府民の方が気軽にスポーツに親しめる環境を整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ アユモドキ等自然との共生を実現する京都スタジアム(仮称)の整備を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 亀岡駅北土地区画整理事業地での建設について、環境保全専門家会議におけるアユモドキへの影響が軽微との評価、公共事業第三者評価委員会における工事着手の了承を受けて、今年度内の工事着手を目指す</li> <li>・ 国、亀岡市等と連携し、地域の振興・活性化と、現公園用地エリアを中心としたアユモドキの生息環境の保全・改善対策等を推進</li> <li>・ 亀岡駅北土地区画整理事業地のまちづくりとも連携し、施設の運営計画・運営手法に係る実施方針を策定</li> </ul> </li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月に「環境保全専門家会議」で、環境への影響が軽微と評価を受けた上で、「京都府公共事業評価に係る第三者委員会」で工事着手の了承を得た。</li> <li>・ 6月議会で用地取得を議決</li> <li>・ 12月議会で建築主体・電気設備・機械設備、各工事契約を議決</li> <li>・ H30.1/20起工式・鉄入れ式開催</li> <li>・ アユモドキの生息環境の改善対策として待避場所設置完了</li> <li>・ 施設の運営計画・運営手法に係る実施方針策定に係る調査完了</li> </ul>
	① <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 山城総合運動公園の京都アイスアリーナ(仮称)について、平成30年度末のオープンを目指し、造成工事に着手します。また、丹波自然運動公園において、クロスカントリーコースの整備を完了するとともに、車椅子駅伝の練習コースの整備計画を策定します。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都アイスアリーナ(仮称)造成工事 29年12月契約、30年3月着工</li> <li>・ クロスカントリーコース整備 整備工事中(30年10月完了予定) 【未達成の要因・理由】 設計において、競技団体からの要望への対応検討や橋梁部分の工法検討に時間を要したため。</li> <li>・ 車椅子専用練習コース整備 測量・設計中(6月設計完了予定)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市町村が行う広域的・基幹的及び準広域的・準基幹的なスポーツ施設の整備を支援し、府域を見渡したスポーツ施設整備を進めます。 ＜支援先：3市町(京都市(西京極陸上競技場)・福知山市(三段池公園テニスコート)・大山崎町(体育館)＞</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都市(西京極陸上競技場) 諸室・トイレ整備</li> <li>・ 福知山市(三段池公園テニスコート) 人工芝コート 4面完了(28年)</li> <li>・ 大山崎町(体育館) 空調照明設備・諸室整備完了</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「京都府におけるスポーツ施設のあり方懇談会」において、これまでの整備への評価を受けるとともに、今後の整備の方向性を議論し、提言を受けます。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「京都府におけるスポーツ施設のあり方懇談会」の開催について調整中 【未達成の要因・理由】 現在実施中の施設整備が一定完了した段階で、新たな施設整備のあり方を議論することとなったため。</li> </ul>
	② <p>2020年東京オリンピック・パラリンピック等に向け、国際大会や合宿地の誘致を進めるなど、府民のスポーツへの関心・参加意欲や競技力の向上、スポーツを通じた地域の交流を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鳥津アリーナ京都において国際的・全国的なスポーツ大会を開催するとともに、中・長期的な視点を持って、国際大会等の継続した開催に向けて誘致活動を展開し、一流のプレーを通じて夢や希望、感動を与える機会を提供します。 ＜国際的・全国的なスポーツ大会の開催 6件(28年度実績 6件)＞</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際的・全国的なスポーツ大会の開催 3件 ボクシング世界タイトルマッチ 2件 京都丹波トリアスロン大会 ツアーオブジャパン京都ステージ 計 7件(116.7%)</li> </ul>

運営目標	達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市町村や競技団体等と連携し、ホストタウンの登録を進め、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた合宿地やスポーツを通じた国際交流事業等の誘致、2021年ワールドマスターズゲームズ関西の開催準備にオール京都体制で取り組みます。</li> <li>・ 2020年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン登録に向け、競技団体や府や市町村の友好提携都市等を通じて相手国へ働きかけるなど登録支援に努めるとともに、登録された市町村での交流事業の実施に向けた組織化等の体制整備への支援を行う。  <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;ホストタウンの登録市町村数 8市町村(28年度実績 5市町村)&gt;</li> </ul> </li> <li>・ 2021年ワールドマスターズゲームズ関西の京都府実行委員会の設置による府内での開催準備と大会のPR</li> <li>○ 国際大会に参加するため、府内を訪れるアスリートや観戦者等をサポートする取組みに着手します。</li> <li>・ 京都での滞在を組織的にサポートできるように、学生等がボランティアとして参画できる仕組みづくりに着手</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホストタウンの登録市町村数 5市町村(うち事前合宿地 3市町村)  【未達成の要因・理由】  ホストタウンの登録申請に向けて、府内全市町村を対象に国の担当者による説明会を実施したが、新たな登録には至らなかったもの。</li> <li>・ ワールドマスターズゲームズ2021関西の京都府実行委員会を設置</li> <li>・ 関西ワールドマスターズゲームズ組織委員会と全国外大連合が協定締結</li> <li>・ 3大会(ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピックパラリンピック競技大会、ワールドマスターズゲームズ2021関西)連携協定締結</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ツアー・オブ・ジャパン京都ステージや京都丹波トライアスロン大会を開催し、スポーツを通じた地域の交流を促進します。  &lt;ツアー・オブ・ジャパン京都ステージの観客数 60,000人(28年度実績 50,000人)&gt;  &lt;京都丹波トライアスロン大会:参加選手 550人、観客数 12,000人(28年度実績 参加選手 513人、観客数 10,000人)&gt;</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ツアー・オブ・ジャパン京都ステージの観客数 50,000人(83.3%)  【未達成の要因・理由】  競技団体や市町村と連携した大会の周知に努め、全8ステージ中2位となる観客数を記録したが、昨年並みの観客数に止まったもの。</li> <li>・ 京都丹波トライアスロン大会の参加選手 538人(97.8%)、観客数 11,000人(91.7%)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「京都トレーニングセンター」におけるジュニアアスリートの医科学的なトレーニング指導によりジュニアアスリートのサポート体制を構築し、スポーツ大会の開催等の機会を捉えて、競技団体・学校・地元等へのPRを進めるなど、利用促進と競技力向上に努めます。  &lt;京都トレーニングセンターの利用者数 12,000人(28年度利用者数 2,033人)&gt;</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都トレーニングセンターの利用者数 7,090人(約59%)  【未達成の要因・理由】  競技団体や学校等へのPR等を実施したが、利用者が伸びなかったもの</li> <li>・ H28との1月割比較では、  ㊹目標割 約23% (2,033人/9月 256人)  ㊹目標割 約59% (7090人/12月 591人)</li> </ul>

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オリンピック・パラリンピックや世界選手権等で活躍した京都ゆかりのトップアスリートを府内の学校や府立スポーツ施設等に派遣する「京のスポーツ夢バンク」について積極的にPRするとともに、子どもたちがスポーツを通じて「夢」や「希望」を持てるよう、バンク登録者を拡大し体験事業を実施します。  &lt;バンク登録 125人、事業実施数 30件(28年度実績 123人、32件)&gt;</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バンク登録 124人(99.2%)、事業実施数 22件(73.3%)  【未達成の要因・理由】  実施先の学校と派遣を希望する登録者との調整が進まず、実施件数が伸びなかったもの</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スポーツを通じた健康や生きがいづくりに向けた、府民総体や京都女性スポーツフェスティバルの参加者を拡大します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 府民総体への参加者数を拡大(教育委員会共管)  &lt;参加者数 16,000人(28年度実績 14,000人(集計中))&gt;</li> <li>・ 女性スポーツフェスティバルへの参加者を拡大  &lt;参加者数 6,300人(28年度実績 5,725人)&gt;</li> <li>・ スポーツへの参加意欲を促進(教育委員会共管)  &lt;府民総体のマスターズ部門の開催種目数 23種目(28年度実績 22種目)&gt;</li> </ul> </li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集計中(5月頃に完了予定) ※ 実績が分かれば記載して下さい。</li> <li>・ 女性スポーツフェスティバルの参加者数 5,577人(88.5%)  【未達成の要因・理由】  新たに剣道を競技種目に加えるなど、参加者の拡大に取り組んだが、参加者数が伸びなかったもの。</li> <li>・ 府民総体のマスターズ部門の開催種目数 23種目  (プログラム記載種目数)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障害者スポーツ振興アクションプランに基づき、障害のある方のスポーツへの参加機会の拡大や競技力向上のための環境整備を進めます。(健康福祉部共管) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サン・アビリティーズ城陽における障害者スポーツの拠点機能の強化(トレーニングルーム設置)、パラリンピック競技別ナショナルトレーニングセンターの運営、アスリートとの府民交流会等を実施し、障害への理解促進とスポーツ選手の裾野を拡大  &lt;交流会等参加者数の倍増：120人 (28年度:57人(1回))&gt;  &lt;ナショナルトレーニングセンター合宿の回数：15回 (28年度実績:13回)&gt;</li> <li>・ 京都トレーニングセンターの車いすフェンシングの合宿拠点としての活用</li> <li>・ 「京のスポーツ夢バンク」において、障害者のトップアスリートと子どもたちとの交流を実施  &lt;事業実施数 3件&gt;</li> </ul> </li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流会参加人数:333人(車いす駅伝時63、その他270)</li> <li>・ ナショナルトレーニングセンター合宿の回数 15回</li> <li>・ 京都トレーニングセンターの車いすフェンシングの合宿拠点としての活用 1回</li> <li>・ 「京のスポーツ夢バンク」での障害者のトップアスリートと子どもたちとの交流 3件</li> </ul>
7	<b>私立高校生等が安心して修学できる環境を整備するとともに、私立学校の特色・魅力づくりや経営改革への取組を支援します。</b>		
達成手段 (数値目標)	<p>京都府こどもの貧困対策推進計画を踏まえ、私立高校生等が経済的事情で学業を断念することがなく、安心して修学できるよう修学環境を確保します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国に対して高等学校等就学支援金の拡充や新たな支援制度の創設を提案</li> <li>・ 私立学校と府が互いに負担・協力し、子どもたちが安心して修学できる制度を運営  &lt;私立高校の経済的理由による中退者をゼロにします。&gt;</li> <li>・ 非課税世帯の修学支援を充実するため、「奨学のための給付金」の単価を増額</li> <li>・ 私立小中学校等に通う児童生徒の授業料軽減制度を創設</li> <li>・ 京都府高等学校修学金(貸付金)の滞納を減らし、制度を持続可能なものとするため、制度の仕組みなどを示したマニュアルや資料を作成し、各学校と連携して、在学時における生徒指導・制度周知を徹底し、滞納の未然防止を徹底</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 29年11月に国に制度拡充の充実等を要望。</li> <li>・ 「奨学のための給付金」の単価を増額(非課税世帯全日制等67,200円→84,000円)</li> <li>・ 私立小中学校等に通う児童生徒のいる年収400万円未満世帯に対して、年額10万円の授業料減免を実施</li> <li>・ 引き続き、各学校に対して、進級時確認シートの実施の呼びかけを実施</li> </ul>

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）	
	<p>体罰、いじめ、中退、不登校事案の減少・根絶や、子どもたちの自立に向けた対応を強化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ等事案に係る初期対応の向上や各学校への事案の共有化など組織対応力と職員スキルを強化する関係機関連絡会議の開催・教職員研修等の支援&lt;6回(28年度実績 5回)&gt;</li> <li>京都府私学修学支援相談センターが実施する保護者・生徒への相談や、不登校者に対する学習支援・居場所づくりの取組を支援</li> <li>いじめの未然防止、早期発見・解決のため、私立学校(小・中・高)に対するネット監視事業やスクールカウンセラーの設置補助等により、学校におけるいじめ防止や初期対応の強化の取組を支援</li> <li>京都ジョブパークと連携し、経営者団体・経済団体に対して、各企業における高校生の採用要請を行うなど、私立高校生の就業支援や就労後の定着支援を実施</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ調査委員会を開催(9月28日、10月31日)</li> <li>京都府いじめ問題対策連絡会議を開催(12月15日)計 3回(50%)</li> <li>【未達成の要因・理由】 いじめ調査委員会については、事案の発生等に応じて開催回数が増減するため</li> <li>ネット監視を実施</li> <li>私学修学支援相談センター運営支援(電話・来所相談件数870件)</li> <li>新規高等学校卒業予定者を対象とした企業説明会の開催(3回)</li> </ul>	
	<p>私学の特色づくりや経営改革を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>私学の特色教育や経営改革をテーマとした私学の研究協議会で、私学経営者とともに将来の私学教育のあり方を取りまとめた上、提言</li> <li>公立と私学が協力した学校運営、私学間の共同事業を支援・充実(学校法人の経営改善の共同研究、人材育成研修等)</li> </ul>		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都私学の将来ビジョンを研究する協議会を開催(部会:5月31日、6月14日、7月19日、全体会8月31日)(提言については、取りまとめ中)</li> </ul>
	<p>私立学校(小・中・高)の耐震改修を促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耐震診断や耐震改修・改築等の国助成制度及び府上乗せ助成の周知、耐震化事業計画・補助金制度等に関する相談を行い、全施設の耐震化を目指して、私立学校(小・中・高)の耐震化を促進&lt;小・中・高の耐震改修率 92%(28年度実績 90.0%)&gt;</li> </ul>		◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>耐震補強等工事4棟実施((対応済数)246棟/266棟(全棟数)→92.5%)</li> </ul>
8	<p>私立幼稚園における地域の子育て支援と特色ある幼児教育活動、教員の資質・専門性の向上を支援します。</p>			
達成手段(数値目標)	<p>多様なライフスタイルや女性の活躍に対応した、総合的な子育て支援施策を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>未入園児一時保育事業(在宅2歳児親子登園支援事業(新規)、地域の子育て家庭の育児や幼児教育の相談、幼稚園と地域の非営利団体が連携した保育・体験学習の実施等(拡充))を充実し、地域の子育て力を強化&lt;全幼稚園147園(28年度実績 130園)&gt;</li> <li>保護者のニーズに合わせ、正規の時間外に幼児教育の一環として行う預かり保育や、長期休業預かり制度を充実&lt;全幼稚園147園(28年度実績 143園)&gt;</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>未入園児一時保育事業 実施園:128園(86%)</li> <li>【未達成の要因・理由】 各幼稚園に対して、補助事業の周知等を行ったが、実施体制や施設整備等の課題があり、実績が伸びなかったもの</li> <li>預かり保育実施園 実施園:144園(98%)</li> </ul>	

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）
	② 私立幼稚園連盟と連携し、教員の資質・専門性の向上、特色ある幼児教育活動を促進します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キンダーカウンセラー等の専門職員の加盟園への派遣を通じて、幼児教育の質の向上と家庭での子育て支援を推進 &lt;70園(28年度実績 67園)&gt;</li> <li>・ 園児大会を開催し、園児の交流を広げ、幼児の健やかな成長と私立幼稚園の振興を推進 &lt;府内5地区(28年度実績 5地区)&gt;</li> <li>・ 教員研修を実施し、教員の資質・専門性を向上 &lt;新採教員研修会・人権教育研修会の実施12回(28年度実績 12回)&gt;</li> </ul>	○	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>・キンダーカウンセラー派遣園:67園(96%)</li> <li>・園児大会を5地区で開催(100%)</li> <li>・新採教員研修会・人権教育研修会 12回(100%)</li> </ul>
	③ 私立幼稚園の耐震改修を促進します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耐震診断や耐震改修・改築等の国助成制度及び府上乗せ助成の周知、耐震化事業計画・補助金制度等に関する相談を行い、全施設の耐震化を目指して、私立幼稚園の耐震化を促進 &lt;幼稚園の耐震改修率 73%(28年度実績 71.8%)&gt;</li> </ul>		◎ <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震補強工事6棟実施 ((対応済数)165棟/213棟(全棟数)→77.5%)</li> </ul>
	④ 「子ども・子育て支援新制度」を踏まえ、各幼稚園ごとの理念に応じた教育環境と保護者の選択権の確保、教育担当部局の関わりでの明確化等、地域の課題・実情に応じた制度の運用に向け、課題に応じて関係団体・市町村・関係課との調整・連携を行うとともに、文部科学省への要望等、各幼稚園を支援し、幼児の健全な育成と幼児教育の振興を図ります。		○ <ul style="list-style-type: none"> <li>・府と幼稚園連盟による意見交換会を開催(9月)</li> <li>・新制度の実施後の幼児教育に係る課題、今後の対応について検討・情報共有</li> </ul>
9	文化首都・京都が世界に誇る文化財の保護と活用を進め、次世代への継承を図るとともに、社寺等との連携を深めます。		
達成手段 (数値目標)	① かけがえのない府民・国民の財産である文化財をしっかりと守り、未来につなぐ取組を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知事部局と教育委員会が一体となった「新文化行政推進プロジェクト」により、文化資源の発掘・保護・継承と京都が有する財産～伝統産業、映像・ゲーム・アニメ・コンテンツ、食、観光の各分野での活用の取組を進め、文化庁「地域文化創生本部」や関西広域連合等とも連携し、我が国の文化行政をリードしていきます。【再掲】</li> <li>・ 暫定登録文化財制度等による未指定文化財の更なる保護・継承を進めるとともに、未指定文化財の修理等の支援を行い、観光資源として公開・活用(教育委員会共管) &lt;支援件数 140件(28年度実績 136件)&gt;</li> <li>・ 「文化財を守り伝える京都府基金」の事業に賛同している社寺や文化財関連団体等をネットワーク化し、仏教会や神社庁等とともに文化体験プログラム等を充実するとともに、「京都文化カプロジェクト2016-2020」において寺院・神社等の文化財を拠点として、京都文化を発信する取組を実施するなど、文化財にふれあう機会を拡充</li> <li>・ ふるさと納税を積み立てる「文化財を守り伝える京都府基金」について、寄附件数・金額の増加を図るため、仏教会、仏教連合会、神社庁等と連携し、基金を活用した府の取組内容や、支援を受けた社寺等のメッセージ、同意を得た賛助者・団体・企業名を公表するなど、府のホームページ等でPRを進めるとともに、京都の文化や文化財に親しむ機会を充実し、個人や企業へ寄附を積極的に呼びかけ &lt;寄附目標 5,000万円(28年度実績見込 1,423万円)、協力団体等 300件(28年度実績 261件)&gt;</li> <li>・ 企業版ふるさと納税やクラウドファンディングの活用など、文化財の保護・継承のための更なる財源確保を実施</li> </ul>	○	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の修理等の事業を支援147件(105%)</li> <li>・ 「文化財を守り伝える京都府基金」の事業に賛同している社寺や文化財関連団体等の協力により、「京都文化カプロジェクト2016-2020」において、二条城を会場とした、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会公認文化プログラム「東京キャラバン」を開催</li> <li>○  <ul style="list-style-type: none"> <li>・基金への寄附1,212万円(24.2%)、協力件数 191件</li> <li>【未達成の要因・理由】</li> <li>・企業等への寄附の呼びかけを行ったが、個人からの寄附が中心であり、寄附額が伸びなかったもの。</li> </ul> </li> <li>・協力団体321団体(107%)</li> <li>・ 企業版ふるさと納税を活用した、未指定文化財の修復等の支援を行う文化レジリエンス事業を実施</li> </ul>

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）
	② <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宗教法人が不活動状態に至らないために法人毎の対策を検討し、指導・相談を実施 &lt;20法人(28年度実績 19法人)&gt;</li> <li>・ 不活動状態にある宗教法人の整理を実施</li> </ul>	○	・指導・相談22法人(110%) (任意解散 6件)
10	「総合教育会議」により、知事部局と教育委員会が教育等の課題を共有し、その解決に向けて連携して取り組みます。		
達成手段 (数値目標)	① <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育に関する新たな課題を総合的に検討する「総合教育会議」を開催・運営します。</li> <li>・ 「京都府の教育等の振興に関する大綱」に基づき、貧困や薬物乱用等の様々な問題や、文化の継承・活用やスポーツ、生涯学習の環境づくりなどに対して、知事と教育委員会が基本的な認識を共有し、連携を密にして一体となり、施策を推進するとともに、家庭、地域、市町村、学校、各種団体、専門機関等が連携して、オール京都体制で子どもたちの教育環境の整備に取り組みます。</li> </ul>	○ ○	・総合教育会議を開催(7月13日)
11	京都の成長戦略の核となる大学の資産を活かし、大学・学生の力を活かした地域の活性化など、ともに成長・発展する「京都のまるごとキャンパス化」に取り組みます。		
達成手段 (数値目標)	① <p>「1まち1キャンパス事業」を通じ、大学と市町村との連携を促進し、地域を学びの場とする大学を府内各地で活性化させるとともに、「大学・地域連携フォーラム(仮称)」等の開催により活動事例の発表・共有を図ることでさらなる連携の促進を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学と市町村との連携事業数&lt;18プロジェクト(28年度実績 15プロジェクト)&gt;</li> <li>・ 1まち1キャンパス事業を通じて地域で活動する学生数&lt;延べ2,400人以上(28年度実績 2,270人)&gt;</li> </ul>	△	・ 連携事業数 16プログラム(89%) 【未達成の要因・理由】 市町村や各大学への事業の周知に努め、昨年度より増加したが、目標数には至らなかったもの。
	② <p>「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」を通じ、京都について学び活動する学生を拡大するとともに、フォーラム等の開催によるPR活動を支援することで、COC+参加大学と府内企業の連携強化を図り、COC+参加校学生の府内就職率の向上を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ COC+事業を通じて京都について学ぶ学生数 &lt;延べ6,200人以上(28年度実績 延べ6,039人)&gt;</li> <li>・ COC+参加大学学生の府内就職率 &lt;29.5%(27年度実績 27.8%)&gt;</li> <li>・ 大学との連携協定の推進&lt;協定締結 新規2大学(累計8大学)(28年度実績 0大学(累計6大学))&gt;</li> </ul>	○	・ 京都について学ぶ学生数 延べ6,804人(110%) ・ 参加大学学生の府内就職率については調査中 ・ 包括協定については、福知山公立大学及び京都女子大学と調整中 【未達成の要因・理由】 相手先の大学との協定内容の調整に時間を要したため。
	③ <p>ホームページ等を通じた情報発信等により、キャリアアップや社会貢献、学び直し等様々な目的で大学に再入学する社会人の増加を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会人入学者の増加&lt;1,000人(28年度実績 950人)&gt;</li> </ul>	△	・ 社会人入学者数 812人(81%) 【未達成の要因・理由】 ホームページ等を通じた社会人入学者向けのプログラムの情報提供等を行ったが、情報発信が不足していたもの

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）
	<p>京都学生祭典を通じ、「大学のまち・京都」の魅力を広く発信します。</p> <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加学生数の増加&lt;1,600人(28年度実績 1,424人)&gt;</li> <li>地域との連携、交流活動の充実&lt;交流活動回数 480回(28年度実績 456回)&gt;（「お茶の京都」関連事業への参画）</li> <li>芸術系大学と連動した広報媒体の製作や音楽パフォーマンス等の実施</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加学生数 1,592人(99%)</li> <li>交流活動回数 366回(76%) 【未達成の要因・理由】 15周年の記念行事の開催のため、地域での踊りの披露などの活動回数が減少したものを。</li> <li>京都学生祭典で、音楽パフォーマンス、芸術作品制作、ファッションショー等を芸術系大学の学生と連携し実施</li> </ul>
12	<p>府立医科大学附属病院における虚偽有印公文書作成及び同行使の疑い事案に関し、全容解明と適正な管理体制の確立等に取り組み、府民の信頼を回復します。</p>		
達成手段 (数値目標)	<p>① 府立医科大学附属病院における虚偽有印公文書作成及び同行使の疑い事案に関し、府公立大学法人と連携し、二度とこうした事態を引き起こすことがないよう、この度の事案の全容解明と京都府立医科大学における反社会的勢力への対応の厳格化や適正な管理体制の確立に取り組み、府民の信頼を回復します。</p>	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査委員会を平成29年2月24日に設置し、調査を実施。（平成29年10月16日報告提出）</li> <li>適正な大学運営に向けて、以下の取組を実施。</li> <li>1 反社会的勢力に対する対応策について <ul style="list-style-type: none"> <li>①反社会的勢力に対する基本方針の策定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・反社会的勢力への対応に関する規程」の制定</li> </ul> </li> <li>②教職員の禁止行為の明確化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教職員倫理規程」の改正</li> </ul> </li> <li>③不当要求等への対応体制の確立</li> <li>④医科大学、府立大学それぞれでコンプライアンス指針策定。医科大学では策定に当たり全教職員対象の意見交換会（7回）及び学生と学長との対話集会（10回）を開催</li> <li>⑤契約事務における反社会的勢力排除の徹底 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「法人契約管理要綱」の改正</li> </ul> </li> <li>⑥警察本部との連携による反社会的勢力排除活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人と警察本部との暴力団排除連絡会の開催</li> </ul> </li> <li>⑦反社会的勢力排除に関する教職員研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・不当要求防止責任者講習会の実施</li> </ul> </li> <li>⑧反社会的勢力への対応マニュアルの策定</li> <li>⑨医療従事教職員向け現場対応マニュアルの改正 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「苦情・クレーム及び反社会的勢力等に対する対応要領」改正</li> </ul> </li> <li>2 京都府知事から指導のあった診療録（カルテ）記載の改善への対応策について <ul style="list-style-type: none"> <li>①診療録記載マニュアル遵守の徹底 <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院長からの周知徹底</li> </ul> </li> <li>②診療録への記載基準の見直し <ul style="list-style-type: none"> <li>・「診療記録記載マニュアル」の見直し</li> </ul> </li> <li>③診療情報の管理強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・他機関からの文書照会に係る処理要領の策定と院内周知</li> <li>・他機関への回答等における診療情報の一元的な管理の実現</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li></ul>

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）
13	府立医科大学及び府立大学における教育・研究・医療の充実や更なる地域貢献を図るため、京都府公立大学法人第二期中期目標に基づき、施設整備や機能強化を図ります。		
達成手段 (数値目標)	① 総合的に物事を判断できる能力と豊かな人間性を有する学生を育成するため、教養教育共同化施設を拠点に平成26年度から全国初の取組として開始した3大学(府立医科大学、府立大学、京都工芸繊維大学)による教養教育共同化を促進します。 ・ 語学・異文化理解、企業との連携等の科目数を拡充<80科目(平成28年度74科目)> ・ 開講時間帯を拡大(現行:12:50~17:40、拡大後:8:50~17:40) ・ 三大学の学生による授業以外の宿泊研修等探究活動やスポーツ・文化活動を支援 ・ 学生間交流の促進に向けた共同体育館の整備計画を策定	◎	・教養教育共同化科目数を6科目増の80科目に拡充。共同化前に比べ、科目選択幅が2.7~5.2倍に拡大した。 ・開講時間帯を午前にも拡大し、終日開講とした(8:50~17:40) ・9月に、三大学学生参加により、「お茶の京都」で地域振興を図る和束町を訪問し、地域おこし団体や町長・役場職員との交流・活性化策の提言などを行う宿泊研修を実施した。 ・三大学学生による自主企画講演会(◎6月、山田洋次監督)開催準備活動を支援した。(29年度は、映画上映会・自主勉強会・山田洋次監督への要請活動などを展開) ・文部科学省補助金に係る事後評価で、これまでの取組に対しS評価を受けた。 ・基本構想委員会まとめをもとに、府大・医大共同体育館の整備について具体的な計画を取りまとめた。
	② 府立医科大学附属病院において、「世界トップレベルの医学を府民の医療へ」をモットーに、陽子線等による最先端のがん治療や安心安全な医療の確保など、医療提供体制の強化を図ります。 ・ 平成30年度からの陽子線がん治療実施に向けて、陽子線治療機器の設置と運営組織・手段の構築を進めるとともに、医療従事者(医師・医学物理士・放射線技師)を育成 ・ 患者が陽子線治療を受けやすい環境を整備 ・ 手術待ち状態の改善を図るため手術室を増室<◎1室、◎1室を整備> ・ 母体・胎児集中治療室(MFICU)を平成30年度の供用開始を目指して整備<◎3床供用開始>	○	・患者が安心して陽子線治療を受けることができる永守記念最先端がん治療研究センターについては平成29年11月に竣工し、現在、平成30年度内の治療開始を目指し、機器の調整や試運転等を行っている。 また、人材育成については、他府県の陽子線治療施設等へスタッフを派遣し、医療従事者の育成を図った。 ・手術室は、平成30年度、31年度供用開始に向け整備中 【未達成の要因・理由】 ・手術室については、昨今の術式ニーズ等の急激な状況変化に対応した手術室となるよう、設計に期間を要したため ・MFICUについては、平成29年度に整備完了し、平成30年度からの供用開始に向け準備を進めているところ
	③ 府立医科大学附属北部医療センターが、北部地域における中核病院や医学教育・臨床研究の拠点としての役割を果たすため、医療提供体制の強化を図ります。 ・ 丹後医療圏で初となるがんの診断から治療までを一体的に実施する「がん診療棟」の新築整備に向けた実施設計を策定 ・ 府北部地域における医療ニーズに対応するため引き続き医師派遣機能を強化 ・ 学生の臨床実習72週化に伴う対応及び臨床研修医の受入・育成の強化	◎	・ 「がん診療棟」の新築整備に向けた実施設計を策定 ・ 医師派遣回数(約3,900回) ・ 臨床研修医を10名受入 ・ 医師待機宿舎の談話室フローリング化やWi-Fi整備等、受入環境を整え11月から学生を受入(32名)
	④ 府立医科大学において、高度な看護分野の実践者、研究者等の育成を目指すため、大学院保健看護学研究科博士課程の平成30年度設置に向けた準備を促進します。	○ ◎	・ 平成29年11月14日付けで、文部科学大臣から平成30年4月1日開設の認可を得た。 ・ 認可を受けて、平成29年12月15日から志望者の募集を開始し、平成30年2月3日に入学試験を行った結果、4名が合格となり、全員の入学手続きが完了した。(平成30年4月1日から1期生4名で、大学院保健看護学研究科博士後期課程開設の予定)

運営目標		達成区分	達成状況（数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由）
⑤	府立大学の下鴨・精華両キャンパスのあり方について、高度で質の高い教育・研究環境を確保し、地域に貢献する大学としてその役割を果たしていくため、28年度に取りまとめた「基本構想委員会まとめ」を元に整備の具体化を図ります。	○	・「京都学・歴史館」への附属図書館と文学部の移転により、空いたスペースを活用しながら、4号館から2号館への研究室の集約や、耐震化への対応など老朽化した大学施設環境の段階的な改善を図っている。 また、和食文化学科(仮称)開設のために必要な施設整備に向け、旧図書館棟の改修を計画している。
⑥	民間との連携による和食文化の保護・継承を図るため、府立大学における平成31年4月を目指した和食文化学科(仮称)開設準備及び学問体系の構築に係る調査・研究等に対して支援します。 ・特任教員、和食文化の大学コンソーシアムによる学問体系の構築を促進 ・「和食の文化と科学」プログラムをより一層充実させるとともに、観光・料理、伝統産業など、和食に関わる分野に携わる社会人向けのコースを開発し、試行実施 ・和食文化に係る高等教育機関の設置に向けて、文部科学省との協議・調整を促進 ・平成29年2月に発足した和食文化の大学コンソーシアムを中軸とし、現在実施している和食に関する研究会や大学、研究機関との連携の下、「和食文化学会」(仮称)を設立し、国際シンポジウム等を開催する。	◎	・和食の文化と科学プログラムを充実の上開講(25科目を延べ約1300人が受講) ・社会人を対象とした和食文化コースを開講(29年5～7月) ・和食文化に係る高等教育機関の設置に向けて、6月に文部科学省へ要望を実施し、平成30年4～5月の届出に向け準備中 ・「和食文化学会」設立総会及び国際シンポジウムを30年2月19～20日に開催
⑦	府立大学が、府政の推進及び府域の発展に寄与し、社会的貢献を果たすため、地域貢献活動の強化を図ります。 ・シンクタンク機能の強化や地域人材育成、地域貢献活動などの取組を推進するため、「京都政策研究センター」と「地域連携センター」の両センターを再編し、「京都地域未来創造センター」を設置(平成29年4月) ・企業等とのマッチング活動などの産学連携の取組を促進するため、府立大学内に産学連携推進拠点として「リエゾンオフィス」を新たに設置 ・府内各地域のような課題の解決に向けて、市町村、住民団体等と共同して調査・研究を行う「地域貢献型特別研究(府大ACTR)」を実施、その成果を、京都学・歴史館等を会場とした成果発表会により広く情報発信 <調査研究活動件数 20件(28年度実績 23件)> ・国際化を推進するための学内の総合窓口として「国際センター」(仮称)を設置 ・京都学・歴史館と連携し、国際京都学シンポジウムや共同研究など、京都学の教育や研究を推進する取組を実施	◎	・「京都地域未来創造センター」「リエゾンオフィス」を設置(4月) ・「地域貢献型特別研究(府大ACTR)」の調査研究活動件数20件(成果発表会等を3回開催(4月・10月・3月)) ・国際化を推進する学内の総合窓口として「国際センター」を設置(7月)し、センター内に海外留学等に関する相談や資料閲覧ができるスペースを設けるとともに、留学生の生活・就職相談や日本人学生の海外留学相談等を開始した。 ・京都学・歴史館と連携し、共同研究を実施するとともに、京都学・歴史館のグランドオープンの際に記念シンポジウム(4月)、京都学ラウンジミニ講座(12月～30年1月)、国際京都学シンポジウム(30年3月)を開催。

目標達成状況(達成区分)	件数	割合
目標達成「◎」(達成手段のすべてが◎)	1	8%
概ね達成「○」(達成手段の◎○が2/3以上)	11	84%
未達成「△」(達成手段の◎○が2/3未満)	1	8%
計(運営目標数)	13	100%

〔達成手段(数値目標)の達成区分〕  
「◎」…目標達成・上回って進捗(達成率100%以上)  
「○」…概ね達成(達成率90%～100%未満)  
「△」…未達成(達成率90%未満)